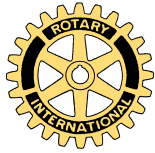


## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 岡本 巧  
幹事 神野 公秀  
会報委員長 兵藤 文男

2009 ~ 2010年度 国際ロータリー John Kenny (ジョン・ケニー) 会長テーマ

The Future Of Rotary Is In Your Hands ロータリーの未来はあなたの手に

(この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。)

## 第2661回例会プログラム

[当年度=21回目; 当月=3週目]

2010年(平成22年) 1月18日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉
- 12:28 1. チャイム
- 12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱  
……それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. お祝い  
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(1/25)……クラブフォーラム(ロータリー情報委員会)  
講師 地区研修委員会  
副委員長 前田 孝司 様  
(紹介者 鈴木文三郎会員)  
(2/1)……新入会員アワー 朝根 慶一 会員  
" 岩瀬 正人 会員
- 13:00 14. 本日のプログラム  
卓話 「市政報告」  
講師 刈谷市長 竹中 良則 様  
(紹介者 南 健 会員)
15. 謝辞
16. 点鐘……〈会長〉
17. 閉会宣言
- 13:30 18. 散会

## ビ ジ タ ー

貞苺 浩二 様 (知立 RC)

## 出 席

会員総数 95名 出席免除 25名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 91名  
欠席 11名 出席率 87.91%  
前々回 (12/21) の修正出席率 100%

## 会 長 報 告

- 1) 1月7日愛知県刈谷警察署感謝状贈呈式に出席をし、感謝状を頂いて来ました。

## 幹 事 報 告

- 1) 本日メールボックスに商工会議所主催の講演会・セミナーのご案内を入れさせていただきました。

## 委 員 会 報 告

## 国際奉仕委員会

- 1) 青少年交換学生ステファニーが1月24日に来日します。2月からは例会に出席しますので、よろしくお願いします。

## 社会奉仕委員会

- 1) 去る、1月13日(水)に当委員会のメイン事業である“RCC(地域貢献事業)”の「学校訪問コンサート(刈谷音楽協会主催・刈谷ロータリークラブ協催)」の第1回目が小高原小学校で開催されました。下記のように1月15日の中日新聞の西三河版に掲載されたので、報告します。



「児童に生演奏を」  
学校でコンサート

刈谷RCと音楽協

刈谷ロータリークラブは地域貢献の一環として、刈谷音楽協会と協力し、同市原崎町の小高原小学校で学校訪問コンサートを開いた。

同ロータリークラブ会員で同音楽協会の渡利典子副理事長が「子どもたちにいい音楽を聴かせたい」とかねて考えていたことから実現した。  
音楽協会に所属する演奏家八人が、モーツァルトやチャイコフスキーなどおなじみの曲や歌を編曲し、五、六

年の児童二百人に披露。六年の前田成実さんは「普段、機会のない生演奏が聴けて良かった」と話していた。  
ロータリークラブでは一年に三校ずつ訪問し、五年で市内の十五小学校すべてを巡回する計画という。

## 会長あいさつ

岡本 巧



虎を用いたことわざ・慣用句について、お話しします。

・「虎穴に入らずんば虎子を得ず(不入虎穴焉得虎子)」

大きな成果や利得を望むなら、大きな危険は避けてはられないことの喩え。貴重な虎の子が欲しければ、怖ろしい虎の棲む穴に挑まなければ手に入れることは叶わない。

・「虎視眈々(こしたんたん)」

虎が獲物を狙って身構え、鋭く見詰めている様子。転じて、静かに機会をうかがい、隙があれば付け入ろうとしている様子を言うことです。

## お 祝 い

1月の会員の誕生日…神谷光義、岡本戯紘、原田光二、橋典子、渡辺富香、竹内一郎、白濱重人、岡本巧、兵藤文男、水野宏幸、小川耕示会員。

配偶者の誕生日…坂貞子(茂)、高野延子(基弘)、八木恵(道之)、杉山恵美子(欣輝)、原田トモ子(光二)、杉浦眞佐子(世志朗)、糟谷晶子(哲生)、鈴木ゆかり(文三郎)様。

結婚記念日…池田憲司、加藤哲也、杉浦芳一、角谷広高、吉岡秀記会員。

1月度入会記念日…杉浦世志朗、鈴木文三郎、白濱重人、伊藤禎康、下谷敏朗会員。

## 卓 話

### 「市長市政報告」

刈谷市長 竹中 良則 様



皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました竹中でございます。少し遅くなりましたが、新年あけましておめでとうございます。

今日は、刈谷ロータリークラブの例会にお招きをいただき、誠にありがとうございます。また、今日は、皆さんの貴重なお時間を頂戴し、このような機会を与えていただきましたことに対しまして重ねてお礼申し上げます。

今年の元旦は、例年になく厳しい冷え込みで、久しぶりにうっすらとした雪景色を見ることができました。皆様には、どのように新春をお迎えになられましたでしょうか？

昨年は、一昨年の世界的な金融不安等により景気後退の波が押し寄せ、経済的に大変厳しい年でありました。また、8月の衆議院選挙において民主党政権が発足し、本格的な政権交代が起こった年でもありました。まだまだ紆余曲折といった感はありますが、少しでも早く国民生活が落ち着くような政策を期待しているところであります。

社会経済情勢が非常に厳しい中で、“新”という言葉が昨年を表す漢字に示されました。自公政権に替わる民主党政権の発足、オバマアメリカ大統領の就任、裁判員制度や高速道路料金割引などの新制度のスタート、新型インフルエンザの流行などといった世相を反映してのようですが、「新」という言葉に続く本年が、皆様にとりまして幸せで、良い年となるようお祈り申し上げます。

さて、本市では、ちょうど現在、新年度の予算編成を行っております。本年度は、景気後退の余波を受け、法人市民税を中心に大幅な減収となり、非常に厳しい財政運営を強いられておりますが、来年度も税収の回復は見込めず、法人税に加え、個人市民税も減収が見込まれ、今年以上に厳しい状況となってまいります。これまでで

上に、事業の取捨選択を行いながら、市民の皆様の期待に応えることができるように、安心や安全といったことを最優先にしながら、予算編成を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

本日は、これまで長年に渡って進めてまいりました事業で、この4月にオープンする刈谷総合文化センターと、秋頃に完成する予定であります新庁舎の状況等を市の広報マンを兼ねまして、ご紹介申し上げたいと思っております。

現在、今紹介させていただきました総合文化センターの南側に新しい保健センターの建設に着手しております。私としては、マニフェストに掲げている歴史博物館の整備も進めてまいりたいと思っておりますが、この保健センターの整備により、概ね市民の皆様に必要な公共施設の整備には目処がつくのではないかと考えております。

これまで、皆様のご尽力もあり、全国屈指の産業基盤に支えられ、着実に都市としての規模を拡大させながら歩んでまいりました。その間、他市に比較しても、恵まれた施設整備を進めることができたと思っております。

しかしながら、国全体として人口減少社会を迎え、ますます進む少子高齢社会なども踏まえ、社会経済情勢は不透明な面が多く、これまでの成長・拡大を前提として行財政運営から、既存のインフラを最大限に活用する行財政運営に転換していく必要があるのではないかと考えております。

こうしたことも踏まえ、私の思っている今後の市政運営の視点を申し上げて、終わりとさせていただきます。

1つ目は、まちの老化といいますが、道路や公共施設などの都市機能の老朽化に如何に対応していくのかということが大切になってまいります。

本市は比較的早くから、都市基盤の整備を始めてまいりました。その結果、現在の市民生活にそぐわない面も生じているのではないかと考えています。道路などは根本的にリニューアルするということは困難ですが、少しでも利便性が高まるように努めていく必要があろうかと思っております。

また、大きな課題の一つは、学校施設の更新であります。昭和30年代から40年代に整備された鉄筋校舎も多く、今後これらの建替えや大規模改修が必要となってまいります。その他の公共施設も、いずれこうした状況を迎えることとなりますので、既存の施設の更新等には、多額の費用もかかることから、大きな課題であらうと思っております。

2つ目は、まちの歴史や文化を再認識し、郷土への誇りや愛着を醸成していくことが大切ではないかと考えています。

高度経済成長の中で、都市機能の拡大を求め続けてきた感もあります。その中で、地域の歴史や文化が埋もれてきたのではないかという面も感じております。これまでの、経済成長はなかなか難しい時代を迎えている中で、自らの住む地域の資産を大切にする姿勢が重要ではないかと思っています。

地域の歴史や文化をはじめとする資源を再発見することで、住むまちへの誇りや愛着を醸成していくことが、豊かに暮らすことの助になるのではないかと考えております。

3つ目は、市民の方々の協働ではないかと考えております。

最近、“新しい公共”という言葉が各方面で言われており、現政権においても、新聞紙上などでよく報道されております。市民の方々の価値観や生活スタイルが多様化し、また社会的な課題も複雑になってきている中で、公共的な役割は行政のみが担うということから、その役割の一部を地域やNPOといった市民の方々にも担っていただき、様々な方たちが、共に公共的な役割を支えるというような考え方であらうと考えております。

本市においても、行政の担う責務はきちんと果たしながらも、市民の方々が担っていただけることは、市民の方々が活躍していただける社会に成長できたらと思っております。一足飛びには行きませんので、行政としても支援をしながら、少しずつそんなまちに成長できるようにしてまいりたいと考えております。

皆様方には、今後とも本市の市政に格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、今年1年が皆様にとって幸多き年となりますようお願い申し上げます。私からの説明とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。